

【議事 4】 新たな自然再生に向けた
調査河川について

4-1. 対象河川の選定の考え方

・次年度以降の自然再生検討河川(候補)として雪裡川とする

旧川復元対象河川は、『釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会』において、現実的に復元可能な河川として次の3つの観点から選定された。

- ・旧河道跡が多く残っており、復元が可能なこと
- ・周辺の土地利用が少ないこと
- ・湿原流入河川で河川区域内の延長が比較的事あること

旧川復元対象5河川

このような観点から、釧路川茅沼地区やヌマオロ川など5河川が選定されている。

<これまでの調査・検討経緯について(第1回旧川復元小委員会資料より)>

現状で湿原への流入土砂量が多い河川で対策を行うことが湿原保全に最も効果的である河川を旧川復元調査検討河川の候補とする。

未対策の河川において、最も湿原への土砂流入量が多い**雪裡川**を候補とし、新たな自然再生の調査・検討を進める

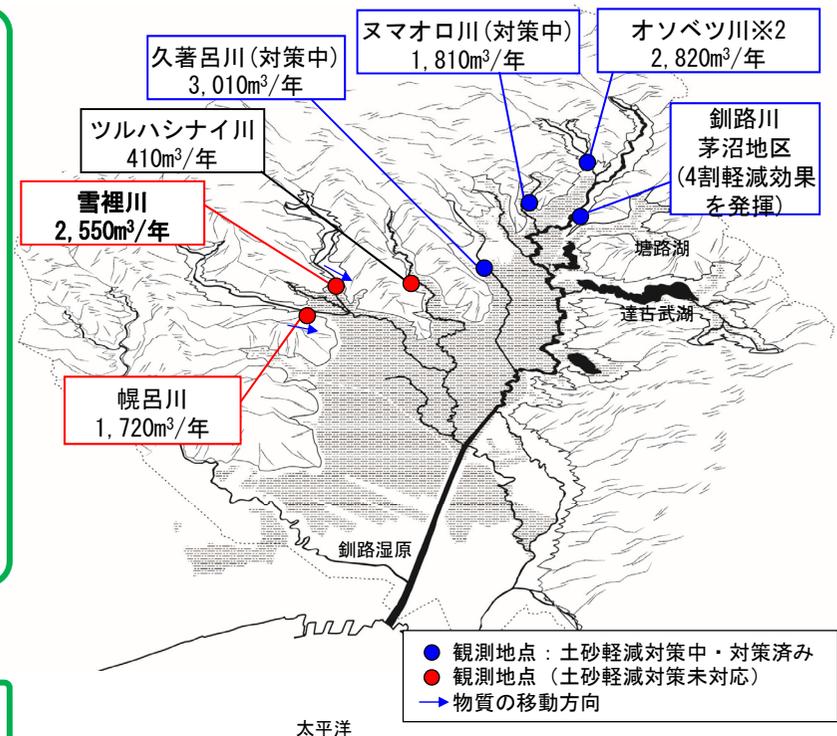


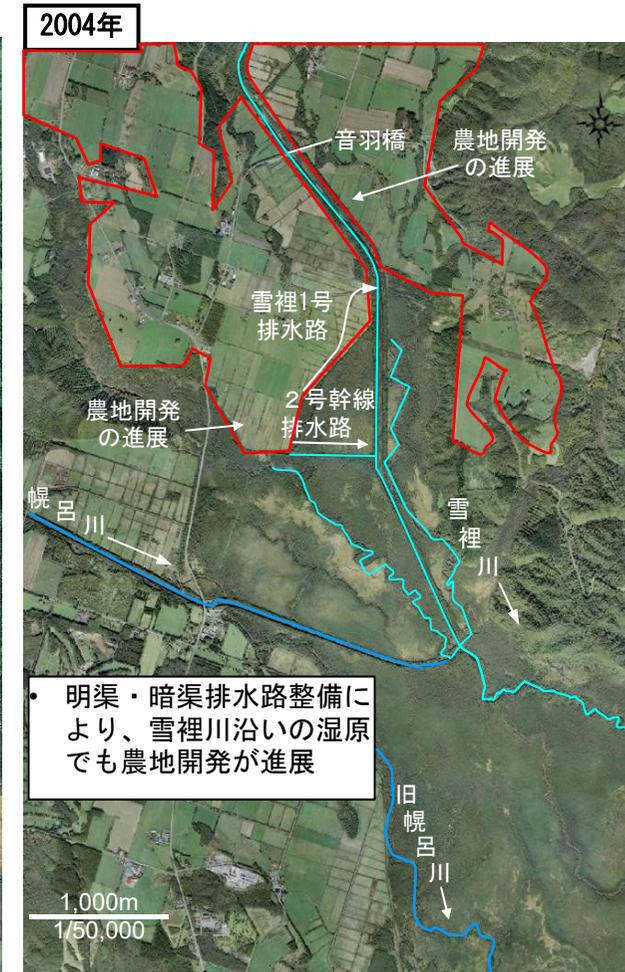
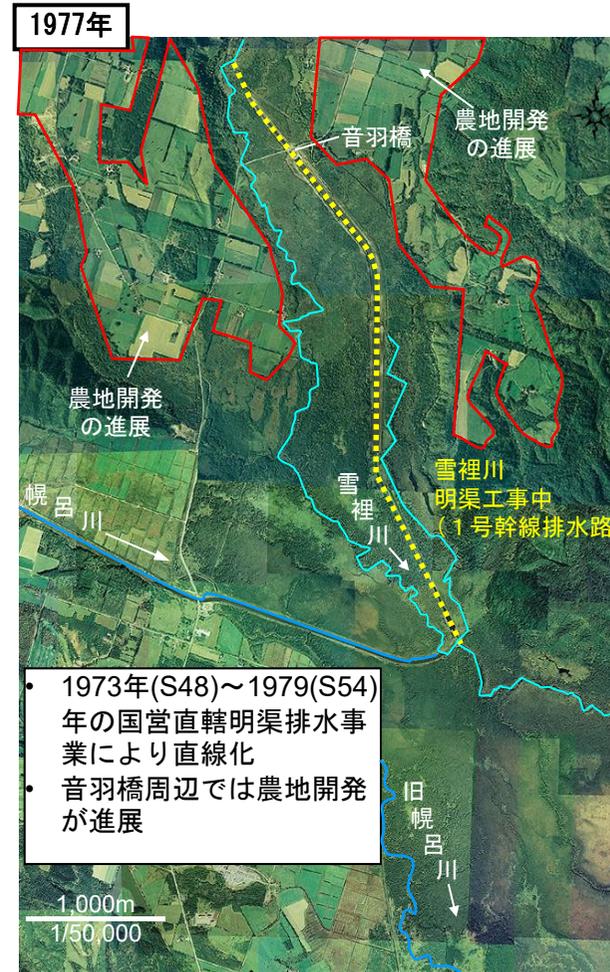
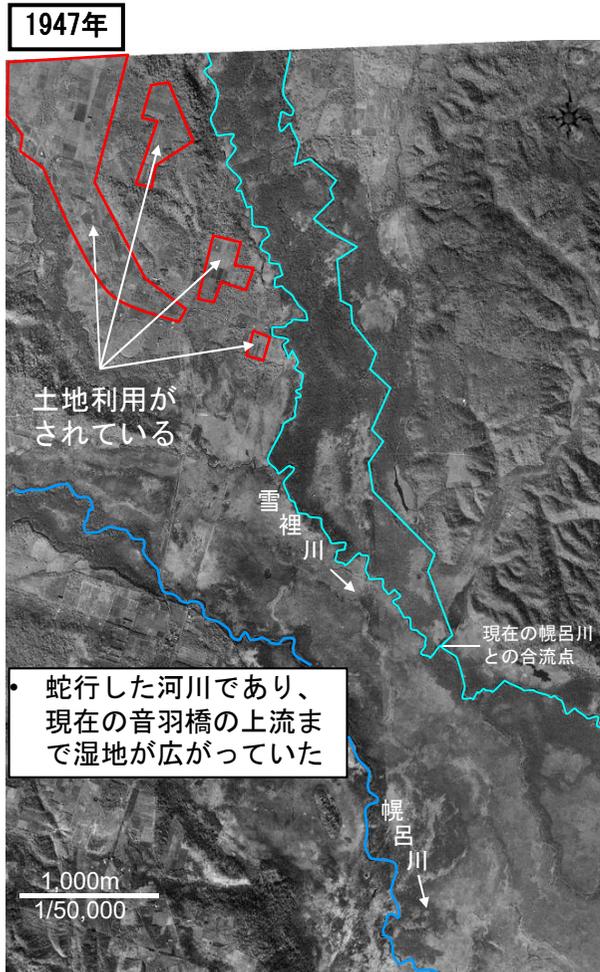
図2 各支川からの湿原流入土砂量

※1 釧路湿原流入河川における年間土砂流入負荷は「釧路湿原自然再生全体構想 2015年3月改定」より引用

※2 オソベツ川では土砂軽減対策は行われていないが、釧路川に流入後、茅沼地区において釧路川と一体で土砂軽減が図られている

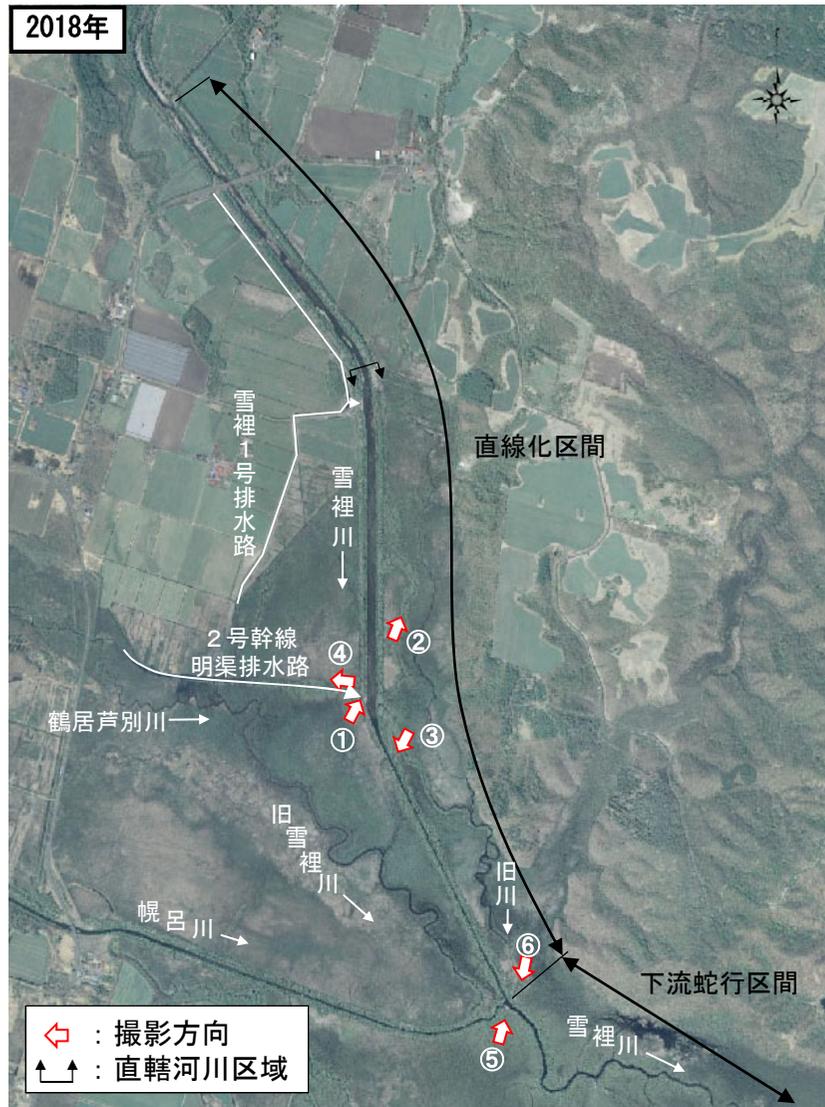
4-2.雪裡川の変遷(河道変遷)

- ・ 1973年から1979年にかけて河道を直線化。
- ・ 河道の直線化及び排水路の整備に伴い、農地造成等の面開発が進展した。



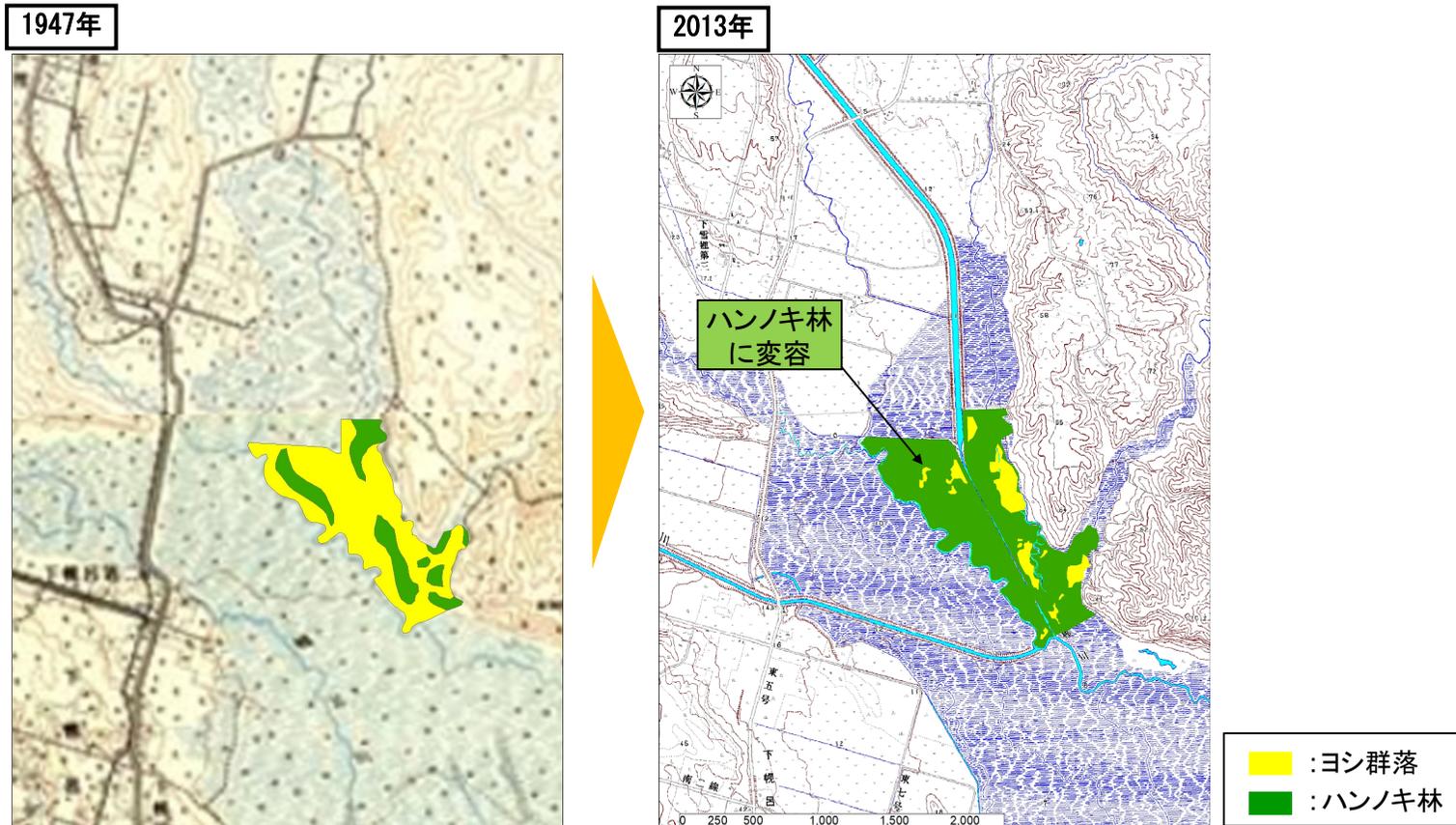
4-3.雪裡川の現状(河川の状況)

・雪裡川は直線化され、右岸の旧雪裡川、左岸の旧川に挟まれた立地環境となっている。



4-4.雪裡川の現状(植生変遷)

- 1947(S22)年から2013年(H25)までに、ヨシ群落面積は約8割減少し、ハンノキ群落面積が約3倍増加した。



1947年	
ヨシ	78 ha
ハンノキ等	29 ha
合計	107 ha

2013年	
ヨシ	13 ha
ハンノキ等	97 ha
合計	110 ha

雪裡川の ヨシ減少面積 (ha)
65 ha (83%減少)
68 ha (約3倍増加)

※現在の植生については、今後現地調査により確認する。 4

4-5.雪裡川の現状(動植物の生息状況)

・雪裡川では、多様な動植物が生息・生育している。

魚類 (貴重種)				
種名	直線河道	旧川	下流蛇行河道	旧雪裡川
スナヤツメ	●		●	
カワヤツメ			●	
ヤチウグイ		●		
エゾウグイ	●	●	●	●
エゾホトケドジョウ		●	●	●
ヤマメ	●	●	●	●
ヒメマス				●
エゾトミヨ	●	●	●	●
エゾハナカジカ	●		●	



※平成21年～22年度調査結果より

底生動物 (貴重種)				
種名	直線河道	旧川	下流蛇行河道	旧雪裡川
ミズシタダミ		●		
モノアラガイ	●	●		●
ヒラマキガイモドキ	●	●		
カワシンジュガイ				●
コガタカワシンジュガイ				●
ゴマフトビケラ属	●		●	



※平成21年～22年度調査結果より
(調査当時のレッドリスト記載種)

植物 (貴重種)					
種名	春季	夏季	種名	春季	夏季
カラフトダイオウ	●	●	クシロハナシノブ	●	
ノダイオウ	●	●	エゾナミクソウ	●	●
ヌマハコベ	●		ネムロブシダマ	●	●
キタミフクジュソウ	●		ホロマンノコギリソウ		●
パイカモ	●	●	ホソバヒルムシロ	●	●
チドリケマン	●	●	イトモ		●
カラフトイバラ		●	カキツバタ	●	●
ゴキゾル		●	ヒメウキガヤ	●	●
ヤマタニタデ		●	ホソバドジョウツナギ	●	●
サウゼリ	●	●	ヒメカイウ	●	●
エゾムラサキツツジ		●	タマミクリ	●	●
エゾオオサクラソウ	●		エゾミクリ	●	●
エゾキヌタソウ	●	●	アカンカサスゲ	●	●
エゾムグラ	●	●	エゾハリスゲ	●	●



※平成21年～22年度調査結果より
(調査当時のレッドリスト記載種)

鳥類では、特別天然記念物であるタンチョウが雪裡川をねぐらとして利用している。



4-6.次年度の検討方針

<今後の予定>

- 令和5年度より、雪裡川における自然再生の具体的な手法や事業の効果に関する検討を進めていく。

今後、他の小委員会での検討成果も踏まえて連携して計画づくりを進めていく予定。